

2012年



相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

相双COCOROニュースなごみ

第1号 H24年3月5日(月) 隔月発行

発行先 相馬広域こころのケアセンターなごみ編集部

理事長 丹羽 真一よりご挨拶



はじめまして。相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会の理事長を拝命いたしました丹羽でございます。当会のニュースレターを発行し、会の事業についての御理解を頂き、多くの皆様に当会へご参加いただけるように祈念いたしまして、御挨拶を申し上げます。

当会は平成23年9月に第一回総会を開催いたしまして、同年11月に県の認可を得ることができました。認可を得るに至るまでには、会の設立をはじめ、相双地域の皆様の多大な御支援を頂きましたし、全国の精神科医療保健福祉にかかわる多くの方々からの御支援もいただきました。この場をお借りして、こうした御支援に心からの御礼を申し上げます。

当会は東日本大震災と福島第一原発事故のために福島県太平洋岸の相双地域にあった精神科医療保健福祉の施設が、閉鎖や移転、縮小を余儀なくされてしまい、心の健康を守り増進するための機能が損なわれたあとを、早期に復興・新生することを目指して活動を進めてまいりました。相馬市の公立相馬総合病院と相馬市保健センターに間借りをいたしまして、精神科医療と保健サービスを行うボランティア活動を福島医大こころのケア・チームが中心となって進めてきた活動が母体となり、福島県や米国日本人医師会、CWAJ、世界の医療団、ヤマト財団、日本財団などからの財政的御支援をいただくことで、相双地域の精神科医療保健福祉の復興を願う幅広い方々の力を結集して、24年1月10日から、相馬広域こころのケアセンター「なごみ」を開設して、訪問サービスや住民の保健活動、住民支援者の支援活動を行う事業を進めるようになりました。当会は、相双地域の各精神科医療施設との連携を保ちながら、24年1月から開設されましたメンタルクリニック「なごみ」(個人開業、新垣元院長)とも良い連携をはかり事業を展開してまいります。

東日本大震災と原発事故の被害を早期に乗り越え、相双地域の精神科医療保健福祉が新しく、力強く発展してゆけるように微力を尽くしてまいりますので、どうぞ多くの皆様と一緒に歩んでくださいますように御願い申し上げます。御挨拶といたします。

DVD撮影

活動紹介

平成24年1月20日(日)福島県相馬郡新地町小川北原の仮設住宅にある一室の集会所をお借りして、こころのケアセンターのスタッフ5名、相双保健福祉事務所の障がい者支援チームと新地保健センター保健師3名の協力をいただき仮設住宅への全戸訪問実施方法に関する教育用DVDの作成の撮影を一日かけて行いました。

アルコール問題の一人暮らし役のOさんは、髪をくしゃくしゃにして、髭を伸ばした役柄になりきったり、なかなか話が終わらない入居者役のSさんは、話を長くする為の大量のバナナやお菓子等の小道具を用意し撮影に臨むスタッフもいました。スタッフの撮影に対する意気込みを感じる事ができ、本番は台詞にはない会話やアドリブが飛び交い、相馬弁ではない方言?(笑)もあり、緊張しながらも楽しい撮影現場となりました。(文責 里美)

※この活動はNPO法人の「当該地域の医療、保健、福祉に関する書籍・DVDなどの発行・販売事業」の一環として行われました。



事例アルコール問題の撮影の準備中
事務長(大谷)役柄に集中??



台詞の読み合わせ中、みんな真剣です!



アウトリーチ活動

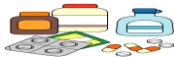
看護師 佐藤 照美

震災型アウトリーチ事業は、精神の中でも、対象者が限定されており、受療中断・未受療・引きこもり・退院後の病状不安定・震災が原因となり精神症状が表出している方など5つの項目の方が対象となっています。

活動内容としては、地域で生活されている上記対象者をご家族・他行政機関や福祉施設などから紹介をいただき訪問をします。訪問の中から見えてきた生活上や治療に関わる問題などをご家族やご本人と相談しながら、解決に向かってようように支援をしていきます。

まだ、手探りで始まり2ヶ月程度ですが、様々な家族の形や病気が家族や生活に及ぼす影響などを日々、実感しながら訪問をしています。私たちの訪問をすることで、笑顔を見せてくれるようになり、病状が落ち着いていく姿を見られることが毎日の楽しみになりました。勿論、招かざる客になっていることもありました。

しかし、設立メンバー6名は、それぞれの訪問などの状況を毎日のカンファレンスを通して、対象者や家族の想いに添った支援をできるように心がけながら、頑張っています。



佐藤さんは、いつか震災前に暮らしていた浪江町（立ち入り禁止区域）に帰りたいと願っています



サロン活動

作業療法士 西内実菜

一休みの会・一息の会

一休みの会は相馬市内の各施設住宅で週一回、一息の会は新地町内の各仮設住宅で月一回行っています。対象者は特定せず誰でも来て頂ける会です。

お茶を飲みながら震災のこと、最近の生活のことなどを話題としてみんなで共有する場になっています。血圧を測って欲しいという要望から血圧手帳を使った血圧測定をはじめ、それを楽しみにしていらっしゃる方もいます。

「仮設ぶとり」という言葉が使われる程、運動不足を大勢の方が気にしている為、狭い仮設住宅でも出来るような簡単な体操やストレッチを行うこともあります。

その他音楽を聴きながらマッサージを受けられる「サウンドヒーリング」や相双保健福祉事務所の歯科衛生士による「お口さわやかサロン」も開催されています。

震災一年を迎える3月11日が間近にせまる中、一休みの会ではなかなかお会い出来ない方々の心の変化にも対応するため個別の声掛けにも力を入れていきたいと思っています。



西内さんは、現在、原発事故のため南相馬市の仮設住宅で暮らしています。写真のバックは、西内さんがセレクトしたバック（子育てパパ用のものを転用）。

事務長のつぶやき

2月20日（月）ブータンからお客様がいらっしゃいました。ブータンといえば11月18日に来日したワンチュク国王ご夫妻が記憶に新しいと思います。

「国民総幸福論」という素晴らしい理念を掲げ、世界で一番幸せな国といわれています。私がブータンを知ったのは17年前ネパール旅行でのことでした。ブータンはチベット仏教を国教とする国でチベット人が約8割を占めます。また容姿が、昭和の日本人を彷彿とさせる人たちです。

ネパール旅行中、風邪をこじらせた私に手を差し伸べてくれたのがチベット人の一家でした。

毎日毎日、無償で薬や食事を届けていただき、その優しさと気遣いに涙がこぼれました。

今回の原発事故は、GDPや便利さを追求してきた日本人にとっての警告のようにも思えます。

隣人を愛することの大切さや思いやりは今後の心のケアの根幹をなすものです。

ブータン人を見習い、人間としてあるべき姿の手本にしたいと思っています。

世にこの会報をお届けた方も届いた方も、ありがとうございます。この会報は、事務局のメンバーが、継続的な支援が提供できる基盤を整えました。この地のニーズに即した支援を提供できることを目指します。

編集員 米倉

